

Appointment and Web-based Communication Division

2017年3月

春号

—Vol.30—

連携室 だより

これからの医療連携へ紹介・逆紹介から地域医療チームの形成へ
がん相談支援センター・がんサロンのご紹介
医療技術部紹介・栄養課
新任医師 退任医師のお知らせ



人事消息 (平成29年1月付)

新任医師



麻酔科
平成22年度卒
池島 まりこ
麻酔科認定医
周術期経食道心エコー認定医(JB-POT)

新任医師



消化器内科
平成18年度卒
松崎 道幸
プライマリケア認定医

退職者

平成29年1月31日
皮膚科
島村 智江

理念

赤十字の基本理念に基づき、個人の尊厳および権利を尊重し
質の高い医療を提供します

基本方針

- 1.患者さまの人権と意思を尊重した病院環境をつくります
- 2.急性期医療を中心に診療を進めます
- 3.救急医療の充実に努めます
- 4.地域の医療機関等との連携を推進します
- 5.国内外の災害時の医療救護活動に貢献します
- 6.職員の教育、研修を充実させます
- 7.健全経営に留意して、その結果を社会に還元します

私たちは患者さまの権利を尊重します

適切に医療を受ける権利

医療に関して知る権利

医療行為を自分で選ぶ権利

プライバシーを保障される権利

人権を尊重される権利

セカンドオピニオンを受ける権利

旭川赤十字病院職員行動規範 5つの約束

- 1.私たちは、来院される方と職員に笑顔であいさつをします
- 2.私たちは、初対面の患者さまに、自己紹介をします
- 3.私たちは、電話の最初に、部署と名前を名乗ります
- 4.私たちは、患者さまに診察や説明をしたあとに「何かわからないことやご質問はありませんか?」とお尋ねします
- 5.私たちは、院内で迷われている皆様にお声掛けをし、ご案内します

発行

旭川赤十字病院 地域医療連携室

〒070-8530 北海道旭川市曙1条1丁目1番1号
tel.(0166)22-8111(代表) fax.(0166)22-8287(直通)
URL <http://www.asahikawa.jrc.or.jp/> Email renkei@asahikawa.jrc.or.jp

これからの医療連携

—紹介・逆紹介から地域医療チームの形成へ—

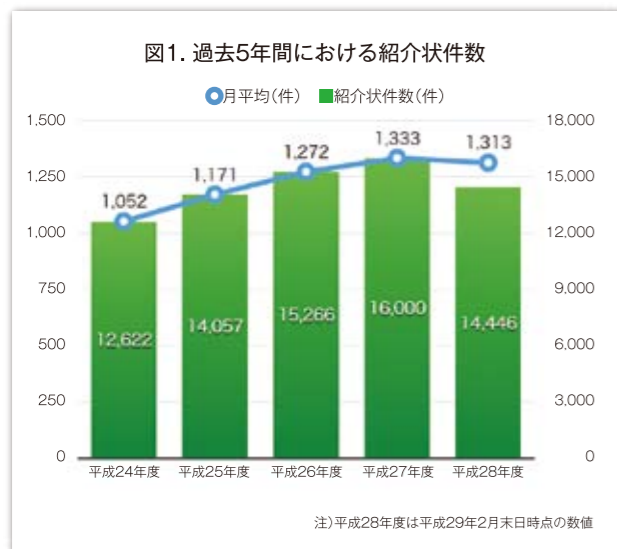
日頃より当院との医療連携にご協力頂きありがとうございます。今回は当院が現在考えている、より進化した医療連携の構築のためのビジョンについてご紹介したいと思います。是非ご意見を頂ければと存じます。

I. 当院の今年の戦略テーマ『地域支援体制の強化』

当院では毎年、年頭に幹部職員研修会を開催し、その年の達成目標をBSC(バランススコアカード)の形にまとめております。本年は戦略テーマを『地域支援体制の強化』とし、その中で具体的な行動目標を立案し数値化してゆく作業を進めております。

1) 紹介しやすい受け入れ態勢の強化

現在、当院では毎月1,300人あまりの患者さまを地域の医療機関から紹介いただいております(図1)。今後更に10%程度の紹介患者数増加をめざして様々な取り組みを進めてゆくつもりです。おそらく連携される医療機関がそれぞれに要望をお持ちのことと思います。いままでもアンケート等は実施してまいりましたが、診療科ごとの要望など、より具体的にニーズを拾い上げるため皆様のもとへお伺いするなど、より積極的に動いてゆく所存です。



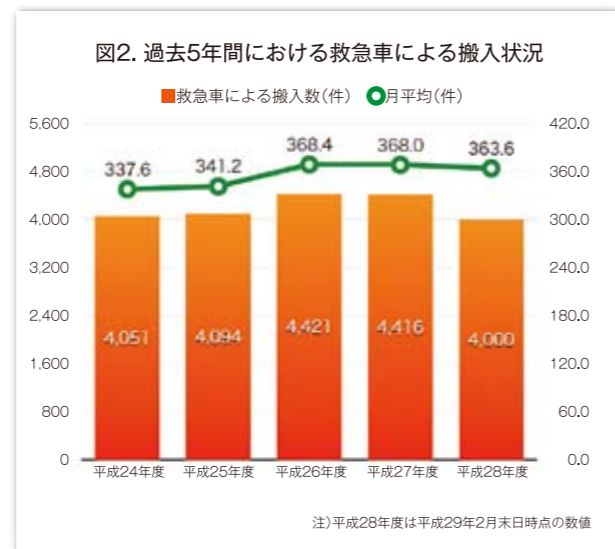
2) 救急医療体制の充実

当院は「断らない救急の実践」を目指して救急受け入れ態勢の充実に努めてまいりました(図2)。しかしながら、HCU・SCUなどの救急ベッドが満床である等、種々の理由で折角紹介を受けながらお断りするケースもございます。今後、当直体制やベッド稼働体制の改革など院内での工夫を進めることにより、救急の受け入れ体制を充実できるよう検討会を立ち上げております。今後とも地域の救急を担う病院として内容を充実させてまいりたいと考えております。



3) 地域医療支援の充実

当院は地域支援病院として、研修会・症例検討会などを院内で開催してまいりました(表1)。しかしながら日々の診療で忙しい中、わざわざ夕方から日赤に出かけて来るのも大変なことかと思っております。もちろん全てのニーズに答えられるわけ



ではありませんが、感染管理・高齢者看護・嚥下・栄養・糖尿病など多くの分野で認定・専門看護師も有しておりますので、皆様のもとに向いての研修や実地指導なども可能な限り協力させていただきたいと考えております。



また、市内のみならず連携する市外の医療機関に対しても、各科医師による診療支援や技術職種による検査等の支援を考えており、今後具体的にそれぞれの医療機関に個別に何う機会を作りたいと考えております。皆様の方からも是非「このような支援は受けられないか」という要望をお寄せいただければ幸いです。窓口は地域医療連携室、教育研修センター、副院長 吉田一人(市内連携担当)、副院長 住田臣造(救急担当)、副院長 森川秋月(市外連携担当)いずれでもかまいません。どうぞよろしく願いいたします。

表1. 平成28年度に開催された地域医療実務者に対する研修実施状況

講演会名	開催回数
医療連携の重宝	1回
医療機関職員研修会	2回
症例検討会	2回
救急搬送症例合同研究会	1回
医療安全研修会	6回
旭川圏卒中地域連携研究会	1回
道北ドクターヘリ事例検討会	4回
専門・認定看護師公開講座	1回
がん診療にかかる研修会	4回
呼吸療法チーム研修会	7回
高齢者の看護に関するセミナー	3回

注)開催回数は平成29年2月末日時点

II. 地域医療チームの形成を目指して

旭川地区は高齢化が急速に進行しております。また、独居や高齢者夫婦の2人暮らしの世帯が多く、介護支援が困難な場合もあります。これらの方たちは複数の疾患を有することが多く、何らかの疾患(たとえば骨折)で当院に入院して急性期治療が終了したからといっても、自立して退院することが困難な場合が多々見られます。かかりつけ医療機関—急性期病院—地域包括ケア病院(病棟)—高齢者介護施設の総てが一つの医療チームを形成して患者のトータルケアにあたらなければなりません。我々も医師会の皆さんや介護施設の皆さんと力を合わせ、そのような医療チームの形成に積極的に協力し、貢献できるよう知恵を絞ってまいりたいと思います。前項で述べた診療支援、技術支援もその一環と考えております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。



文責/副院長
森川 秋月



図1.平成26年度がんサロン利用状況(利用者別)

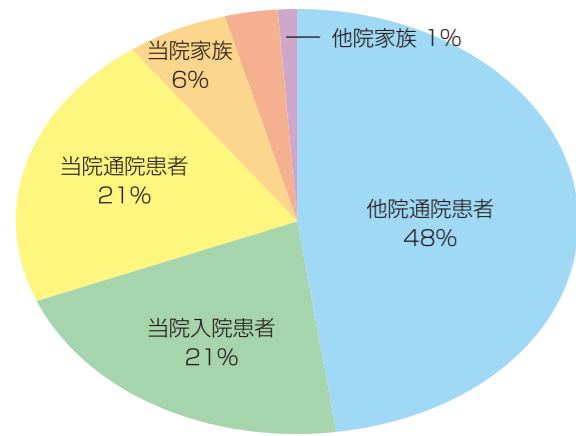


図2.平成26年度がんサロン利用状況(年代別)

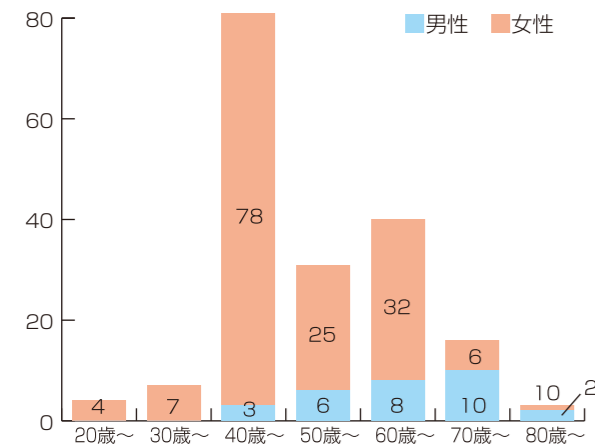


図3.平成26年度がんサロン利用状況(疾患部位別)

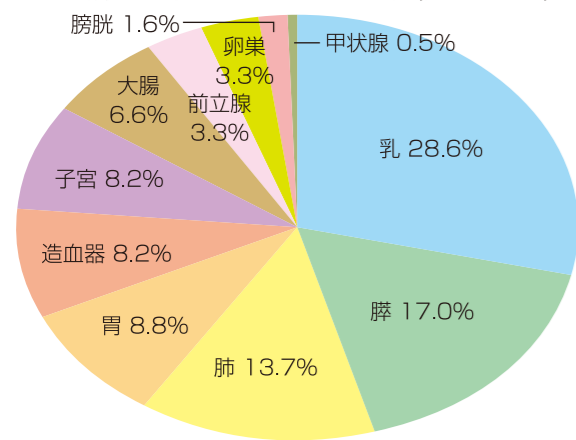
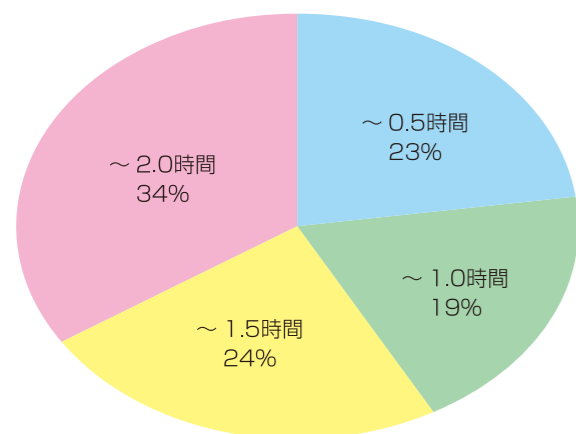


図4.平成26年度がんサロン利用状況(利用時間別)



がん相談支援センター・がんサロンのご紹介



当院は、平成25年より北海道がん診療連携指定病院の認定を受けております。当該認定は、がん診療に関わる集学的治療の提供体制やレジメンの管理・病病連携・セカンドオピニオン体制等、基準以上の整備がなされている施設が認定されるものとなっており、この基準要件については毎年10月に北海道へ報告し認定更新を行っております。今回は、基準要件である「がん相談支援センター」と「がんサロン」についてご紹介します。

がん相談支援センターについて

「がんと診断されたけど、心の整理がつかない」「がんの治療や療養についての情報がほしい」「医療費のことが心配」「退院後の生活は?」「職場復帰はどのように?」……など、がんという病気にはさまざまな不安や心配が付きまといまいます。そんな患者様やご家族様の話にじっくり耳を傾け、一人一人に合った解決方法を共に探していくのが「がん相談支援センター」です。

当院のがん相談支援センターでは、国立がん研究センターの研修を受講した医療ソーシャルワーカーや看護師など専門の相談員が、患者様やご家族様のご相談をお受けいたします。また、当院の患者様やご家族をはじめ、当院を受診されていない方もご利用いただけます。

外来ではじっくり話を聞く時間や資料がないと感じていらっしゃる診療医の皆様からのご紹介も真摯にお受けいたします。

(文責:がん相談支援センター がん専門相談員 松田 哲子)



がんサロン「ハートクロス」について

がんサロンは、がん患者様やご家族様が温かな雰囲気の中で思いや悩みを自由に語れる場所として、院内外問わず多くの方々にご利用いただいております。また、がん専門の看護師や医療ソーシャルワーカーが在室しており、情報提供や相談を受ける場としてもご利用いただいております。図1～4のグラフは平成26年度のがんサロン利用状況を表したものです。平成26年4月1日開設以降3年間同ような傾向で推移しております。当院のがんサロン利用者は、当院治療中の方と他院に通院中の方がほぼ同じ割合であることや乳がんの方の利用頻度が高いといった特徴がみられます。利用された方からは「くつろげるところ」「情報収集しやすく気軽に聞ける」「問題の解決ができた」「治療の選択ができた」などの肯定的意見をいただいております。毎週木曜日の通常サロンに加え、第2木曜日は院内職員によるミニ講座を開催しています。ミニ講座にも多くの方々にご参加いただき、大変好評をいただいております。ミニ講座のテーマは年間予定表として当院ホームページにも掲載しておりますので、そちらもぜひご参照下さい。「ゆっくり話をしたい」「同じ病気の人と話をしてみたい」など、がんサロン「ハートクロス」の利用をご希望されるがん患者様やご家族様がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介いただきまして、診療の補助として活用していただければ幸いです。

(文責:緩和ケア認定看護師 蟹谷 和子)

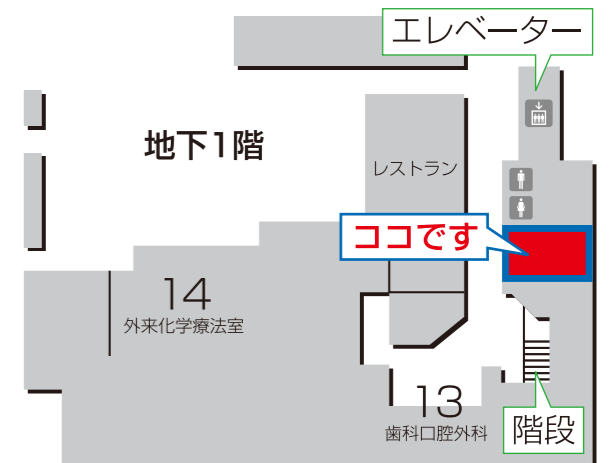
がん相談支援センターのご利用方法

- 相談窓口/当院外来棟1階
がん相談支援センター(医療支援センター内)
- 受付時間等/月曜日～金曜日(祝祭日を除く)
8:25～17:00
- 電話/0166-22-8111(代表)
内線3120または3121
- 相談方法/相談は「電話」または「面談」でお話を伺うことができます。「面談」は原則予約制としております。事前にお電話を頂けるとスムーズです。
- その他/相談は無料です。匿名で相談を受け守秘義務を厳守いたします。

がんサロン ハートクロスのご案内

- 開催場所/当院外来棟地下1階
- 開催日時/毎週木曜日(祝祭日を除く)
10:00～12:00 14:00～16:00
- 利用料/無料
- お問い合わせ/当院がん相談支援センター
0166-22-8111(代表)
内線3120または3121

がんサロン案内図



がんサロンハートクロス「ミニ講座」のご案内

- 開催場所/当院外来棟地下1階
がんサロン ハートクロス
- 開催日時/毎週第2木曜日(祝祭日を除く)
13:00～13:30
- 対象者/当院に入院・通院されている方、及び地域にお住まいのがん患者様・ご家族様
- 受講料/無料
参加を希望される方は事前予約不要ですので、直接会場にお越しください。駐車場ご利用の方は無料となりますので、入場された際に駐車券をご提示ください。



医療技術部紹介
〈栄養課〉
 Nutrition

当院の給食業務は直営で、管理栄養士9名、調理師10名が在籍し、部分委託側のスタッフと協働し、安心安全な病院食の提供をこころがけております。

食事で四季を楽しんでいただけるよう、旬の食材を取り入れた行事食を提供しております。季節感のあるカードを食事といっしょに提供(図1)し、行事にまつわる豆知識なども紹介し患者様に喜ばれております。



図1:3月3日 ひなまつりのカードを添えて

基準に沿った7段階の嚥下調整食をはじめとして215種類の食種を疾患別に設け、がん治療時の

食欲不振、低栄養の患者様への個別対応食の提供にも力を入れております。直営ならではの強みを生かし、料理コンクールの出場などにもチャレンジしております(図2)。



図2:第3回病院レシピコンテスト乳和食部門 グランプリ トロしゃき茶碗蒸し

栄養相談室は内科外来に設け、管理栄養士が常駐し受診日当日に栄養指導を受けられる体制を整えております(図3)。平成27年度の栄養指導件数は入院外来合わせて5,980件となりました。旭川地区糖尿病連携パスでは旭川市周辺約75の医

療機関が連携しておりますが、教育入院の際に当院の管理栄養士は合併症の評価や治療方針をふまえて栄養指導を行っております。退院後はかかりつけ医で診療を継続し、年に1~2回の当院での糖尿病専門医の診察の際に外来栄養指導を行いご自宅での食生活について確認を致します。

集団栄養指導の一環として、当院で栄養指導を受けている患者様やご家族様を対象に糖尿病食、腎臓病食の「治療食お試しランチ」を行っております。調理師が心をこめて作ったおいしい治療食を実際に食べていただき、調理方法などもご説明



図3:栄養相談室の様子

させていただきます。食事療法への理解を深めていただく機会になればと思っております。

脳卒中や老嚥等による摂食嚥下障害症例の増加に対し、早期より摂食嚥下リハビリテーション及び栄養管理に取り組んでおりますが、NST介入で経口摂取が可能となり転院した後に誤嚥で再入院となる事例もございます。そこで嚥下調整食の共有化と栄養管理の充実に向けて、平成26年3月に連携先病院の方々とともに旭川地域ニュートリションケア研究会を立ち上げました。継続的な活動を重ねた結果、平成27年7月に旭川地区嚥下調整食マップ2015、栄養管理情報提供書共通フォーマットを作成し運用を開始しております。

当院開催の摂食嚥下がテーマのNST研修会につきましては、一昨年度より院外の地域連携先病院にもご案内させていただいており、管理栄養士が嚥下調整食2013の特徴と実際について講演を行い、調理師は調理工程について説明し、また実際の嚥下調整食もご覧いただいております(図3)。

平成27、28年度ともに院外より50名以上、あわせて約130名の方にご参加いただいております。参加いただきました方々の職種も医師・歯科医師・管理栄養士・リハビリ療法士・看護師・薬剤師・介護士・介護福祉士と幅広く、開催後のアンケート結果では「嚥下調整食について理解できた。」「嚥下調整食を実際に見ることができてよかった。」「嚥下評価のしかたが理解できた。」などの感想をいただき、また「嚥下調整食の地域連携に参加したい。」「今後も継続的に開催してほしい」などの希望もいただいております。

道北地域では栄養管理の研修の場は限られ、嚥下調整食や栄養管理に関する認識にもまだまだ差があるように感じます。啓蒙と教育について当院からの発信を継続し、今後は共通ツールの活用と情報提供を更に広げ、在宅までの栄養管理継続と食べる機能を維持する一助となるようすすめてまいりたいと思っております。

(文責:医療技術部栄養課 課長 長瀬 まり)



図4:第113回NST摂食嚥下研修会の様子